

第百話 「借金地獄に仏様」

11月1日 文責：野口賢次

数年前の話です。元請会社が倒産し、孫請けの A さんは自宅を担保に街金から事業資金の融資（不動産担保ローン）を受けました。

景気の低迷も続き、返済も次第に行き詰まります。金利だけ払い何とかしのいでいましたが、それも限界となりました。A さんはかろうじて徳俵に足がかかっている状態です。

働き者の A さんは腕のいい職人さんです。担保に入れた自宅は、汗して手に入れた念願のマイホームです。

A さんの節くれだった指を見て何とかしてあげたいと思いました。この思いを内藤雄さん（借金と相続対策では第一人者）に伝え、お手伝いをしていただきました。

街金は返済不能など最初から承知です。相手の狙いは不動産です。街金の対応を内藤さんが一手に引き受けてくれました。差し押さえられる前に何とか売却し、A さんに再起の糧を残すことができました。内藤さんがいなければ出来なかった仕事です。

A さんは無念であったのでしょうか。売買契約書のサインには力が入りました。机の上には今でもサインの痕が残っています。

内藤さんは弁護士を目指し、何度か司法試験に挑戦してきました。身内の会社である三商（建築・不動産・金融）を引き継がなければならない事情が生じ、司法試験を断念しました。

また、数年前から相続アドバイザー養成講座「借金と相続対策」の講師を務めています。明快な法律知識、貸し手の心理、借り手の心理、人間的魅力もあり、この講座はあつと言う間に看板講座となりました。今では内藤さんのファンは全国にいます。

借金の相続対策（過払い請求などとは次元が違う）を仕事として手がける人はほとんどいません。内藤さんは異色の存在です。

内藤さんは人を気遣う優しさのなかに、とてつもない強さを持った人です。内藤さんに借金地獄から救われた人は何人もいます。

仕事はいつも神がかっていました。「見えない力が働いた」と本人は言っていました。借金に追い込まれた人にとって、内藤さんはまさに借金地獄で出会った菩薩です。

そんな内藤さんを病魔が襲います。末期の胃癌で余命を告げられました。現

実を冷静に見つめ、最後まで真正面から対処する姿はサムライのようでした。治癒をやめ残された時間を大切に、自宅療養を選び、去る9月22日（彼岸）旅立っていきました。

内藤さんが発行している「三商レポート」も九十六話までできました。ご本人は百話までは何とか書きたいと言っていました。その願いもかなわず、九十九話で力尽きました。

今回のレポートは「三商レポート第百話」とし、内藤さんに成り代わり書かせていただきました。よって野口レポート194号は永久欠番とさせていただきます。かけがえのない人を失いました。

内藤雄さんのご冥福を心よりお祈り申し上げます。 合掌